

チェルノブイリ通信

<http://www.cher9.to/tusin.html>

NPO法人
チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒811-3102 福岡県古賀市駅東2-6-26-203
TEL/FAX: 092-944-3841
E-mail: jimu@cher9.to



チェルノブイリ医療支援ネットワーク(CMN)は、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。この活動を通して、日本とベラルーシの人びとの心と心のつながりを深めます。

No.

103

2016年4月ベラルーシ訪問レポート

CONTENTS

チェルノブイリ事故30周年の会議に出席 / 第4回広域被災者支援ネットワーク会議 / 支援者のお名前とメッセージ / 事務局からのお知らせ / 編集後記



放射線医学環境センターで見つけた女の子。診察に来たのだろうか

あなたもチェルノブイリを支える一人になっていただけませんか？
ご寄付を受け付けています。

郵便振替口座 01770-1-65328
楽天銀行 ジャス支店(支店番号201) (普) 7017104
住信SBIネット銀行 法人第一支店(支店番号106) (普) 1030416



本紙はCMNの活動を支援してくださっている皆さまへお届けしています。また団体ウェブサイトでもPDFファイルにてご覧いただけます。送付がご不要な場合は事務局までご連絡ください。

チェルノブイリ事故30周年の会議に出席

2016年4月26日にチェルノブイリ原発事故30周年を迎えました。事故後30年の現在における医学上の問題を議論する国際会議に出席できることになり、チェルノブイリ医療支援ネットワークの理事として参加しました。

今回の参加者は、日本医科大学名誉教授・金地病院名誉院長・清水一雄先生、獨協医科大学国際疫学研修室・木村真三准教授、日本医科大学附属病院臨床検査技師・渡會泰彦先生、ロシア語医療通訳・コーディネーターの山田英雄さん、そして私で

す。木村先生はパリから別便で参加、他のメンバーはモスクワ経由でミンスクに入り、4月16日の夜にミンスクのホテルで合流しました。

国際会議は4月21-22日、ゴメリで開催されました。もう一つの重要な予定である甲状腺内視鏡手術はプレストです。ミンスクとプレスト、ゴメリはちょうど二等辺三角形の頂点という位置関係になっています。そこで、ミンスクから列車でプレストに向かい、甲状腺内視鏡手術と術後検診、甲状腺内視鏡手術の体験者に対するインタビューを行い、ゴメリに向かいます。ミ

ンスクープレスト、ゴメリーミンスク間の列車利用は経験がありますが、プレストーゴメリ間の移動は初体験で、9時間もかかりました。結局、3路線で合計1500キロに及ぶ列車の旅となりました。日程の関係から、ミンスクでの時間があまりなく、いつも訪問していた日本大使館やミンスク10番病院、医学再教育アカデミーの訪問は割愛しました。また、FBS(福岡放送)のスタッフが番組制作のため同行しました。

報告／河上雅夫(CMN理事)



プレスト州立病院で甲状腺内視鏡手術

4月18日、プレスト州立病院を訪問し、院長に対する表敬訪問・挨拶と、患者さんに対する術前の検診後に手術室に入りました。私は2012年以來、毎回の訪ベラに参加してきましたが、内視鏡手術に立ち会うのは今回が初めてです。これまでは、見学希望者が多くて人数制限があり立ち会うことができませんでした。実

際に内視鏡手術を目の当たりにすることでその意義を再認識することができました。

清水先生のベラルーシにおける甲状腺内視鏡手術は、現在のところ良性腫瘍やバセドウ病であり甲状腺がんの手術ではありません。これは、甲状腺内視鏡の手術技術をベラルーシの専門医に伝えるのが目

的であり、良性の手術ができれば悪性に応用できること、わずか数日の滞在ではリスクの少ない良性の手術の方がいいからです。今回手術を受けるのは、31歳のエレーナさん。甲状腺にしこりがあり、ものを飲み込むのがつらいそうです。右側の甲状腺を内視鏡で摘出することになりました。

プレスト州立病院のイーゴル医師は、2009年からの清水先生の手術に参加し、その後プレスト州立病院で自ら内視鏡手術を始めています。そして、歯科で使う金具を元に吊り上げ金具を作るなど独自の手法を取り入れています。年間20～30例、のべ100例にも及ぶ内視鏡手術をしているそうです。

今回の手術ではイーゴル医師の使っている器具を使用し、イーゴル医師が普段行っている手法(内視鏡とメスの挿入口が同じ場所1か所、清水先生の手法は内視鏡とメスの入口が別の2カ所の挿入口)によって手術が行われました。清水先生にとっては、使い慣れていない器

具といつもとは違う角度・位置関係での手術で非常にやりにくかったものと思います。

甲状腺の近くにはいくつもの血管、神経が通っており、特に神経を傷つけてしまうと声が出なくなる

などの障害が残ることになります。そのために、神経の場所を確認しながら慎重に切り進めていく必要があります。今回は特に神経の位置がわかりにくく、想定以上の時間がかかっていました。それでも、予定の2時間以内に終わり清水先生の技術の高さがわかります。そして、手術中に頻りにイーゴル医師に声をかける清



手術前検診をする清水先生

水先生。手術の細かい点について指導をしているのです。あとで清水先生に確認したところ、まだまだ教えることはあるということです。最新の医療技術である甲状腺内視鏡手術を広めるためには、まだまだ努力が必要であることを認識させられました。



内視鏡手術の体験者が訪問

プレスト州立内分泌診療所を訪問すると2014年に甲状腺内視鏡手術を受けたスベトラーナさんが清水先生を訪ねてられました。スベトラーナさんについては「チェルノブイリ通信No. 98」(2014年12月10日)で紹介しています。スベトラーナさんは私も2年前にお会いしていますが、初めは誰だかわかりませんでした。手術の時にも英語が得意である

のがわかりましたが、今回は清水先生と英語での会話が弾んでいました。その内容を聞いて大変驚くとともに、甲状腺内視鏡手術を広めてきてよかったということを確信しました。彼女は良性腫瘍でしたが、手術前はどこに行くにも気になって仕方がなかったけれども、手術後は何事にも積極的になれたとのことでした。それが外見にまで表れて、別人のよ



甲状腺内視鏡手術を受けたスベトラーナさん

うに見えるまでになっていたのです。これまでの甲状腺手術では、病の原因を取り去ることはできても、傷を残してしまうのでは、なかなか前向

きの気持ちにはなれなかったかもしれませんが、内視鏡手術では傷が残らないことがプラスに作用したのでしょう。

この日には、2007年に日本医科大学で甲状腺内視鏡手術を受けたアレシアさんも家族でやってきました。我々のベラルーシ訪問の度に会っているので、すっかり顔なじみになっていますが、息子のフィリップちゃんはずいぶん成長してきました。胎児の時に被爆して、20歳の時に甲状腺がんの手術を受けた彼女は、その後結婚し、子どももできて普通の家庭生活を送っています。福島では甲状腺がんが増えており、将来に対して不安のある若者も多

いと思いますが、アレシアさんの経験は福島の子どもたちに勇気を与えるものだと思います。

4月19日、プレスト内分泌診療所を訪問すると、20人以上のマスコミ関係者が待ち受けていました。テレビカメラも3台あり、清水先生や木村先生は記者からのインタビューを受け、フラッシュがたかれて一時は騒然としていました。同行のFBS記者は現地の記者を逆取材していました。すると、彼女も甲状腺の手術を受けており、日本からの支援に感激して涙を流していました。

この会見をセットしたのはプレスト州保健局で、日本から我々が来ることをアルツール所長から聞き、マ



家族とともに訪れた アレシアさん

スコミ関係者を招集したということです。特に、清水先生の甲状腺内視鏡手術には多くの関心が集まっており、その後、プレスト州立病院での術後検診にもテレビの取材があり、患者さんへのインタビューも行われていました。

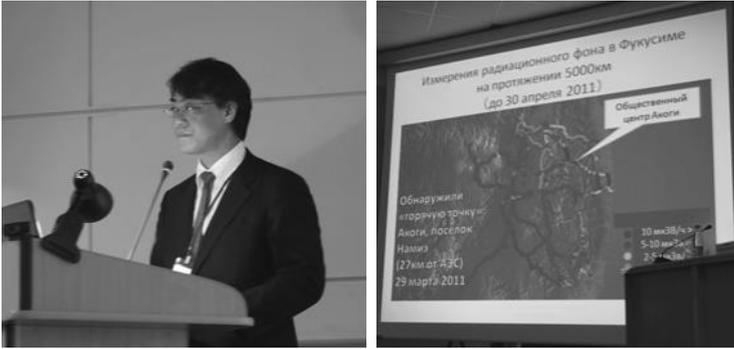
チェルノブイリ原発事故30周年の国際会議が開かれたのは、ゴメリの国立放射線医学環境センターです。ここには2012年に訪問しており、病院内を見学させていただき、最新の設備が整っていることを「チェルノブイリ通信」№90で報告しています。

会議のテーマは「現時点における放射線医学の問題を解決する科学・実践」となっており、清水先生、木村先生の講演内容もこのテーマ

にふさわしい、多くの方の関心を集めるものでした。

放射線医学環境センター所長の開会のあいさつの後、旧ソ連科学アカデミーの権威、レオニード・イリンさんが登壇されました。チェルノブイリ原発事故の当時、ソ連邦保健省放射線防護国家委員会の長だった彼が生涯許容被曝線量350ミリシーベルトを決定したと言われていいます。現在、88才ということですが、まだまだ元気です。

清水先生はベラルーシにおける甲状腺内視鏡手術について講演され、特に、2007年に日本医科大学で甲状腺内視鏡手術を受け、その後結婚・出産したアレシアさんを紹介される部分では会場から拍手が沸き起こりました。講演は英語で行われ、それをロシア語に通訳したのが放射線医学環境センター国際部の若いスタッフ、アルツーマさんです。アルツーマさんは清水先生と事前に打ち合わせして正確な翻訳



会議で講演する木村先生。福島第一原発事故直後に放射線測定を行ったこと、その後の線量測定や現在の汚染状況についての報告があった



になるように努力されたということで

す。
昼食後には木村先生の講演があり、福島第一原発事故による放射能汚染の測定について報告されました。木村先生は日本語で講演され、山田さんによるロシア語通訳でした。事故直後、福島に入り汚染地図を作り続けたことや、最新の汚染地図の紹介がありました。

4月23日は土曜日でしたが、ベラルーシ赤十字を訪問することになりました。休日かと思っていましたが、カルヴァノフ総裁をはじめ多くの職員が勤務中でした。これは共産党時代からの伝統で、労働奉仕の日だということです。まわりの建物でも、

多くの人々が清掃活動を行っています。カルヴァノフ総裁との会見では甲状腺検診についての有意義な話し合いができました。そして、雪だるま号維持費の贈呈を行いました。

今回のベラルーシ訪問では、甲状腺内視鏡手術がテレビ放送、地元新聞、そして国際会議を通じて広く紹介され、その意味が多くの方に理解されたものになったと言えます。

チェルノブイリ医療支援ネットワークの支援者の中にも、内視鏡手術についていろいろな意見がありますが、2009年から内視鏡手術を広める活動をしてきたことは間違いなかったと確信しています。

今回の訪問ではFBS(福岡放送)

の同行取材がありました。成田空港出発から帰国するまで、常にカメラで撮影されており、なかなか気を抜けない旅でした。FBSの取材は昨年11月の連続学習会から始まり、福島での広域被災者支援ネットワーク会議、今回のベラルーシ訪問、さらに自宅でのインタビューまで含めてかなり長時間に及ぶものでした。その結果、夕方のローカルニュース番組「めんたいPlus」では3月10日、5月6日、5月26日の3回、日曜深夜のドキュメンタリー番組「目撃者f」では5月30日に放送になりました。

ベラルーシで新聞記事になったインターネットアドレス

1. <http://www.bk-brest.by/2016/04/master-klass-ot-japonskogo-professora-mediciny-proshel-v-breste-2016-04-19/>
2. <http://www.belta.by/regions/view/professor-iz-japonii-provel-v-breste-master-klass-po-udaleniju-opuholi-schitovidnoj-zhelezy-190226-2016/>
3. <http://www.zarya.by/event/message/view/18383>
4. <http://m.b-g.by/ru/page/health/31105>
5. <http://www.sb.by/v-belarusi/article/pochetnyy-professor-yaponskogo-meditsinskogo-instituta-provel-master-klass-dlya-brestskikh-medikov.html>



2016年3月12、13日に開催された第4回広域被災者支援ネットワーク会議に参加してきました。今回の開催場所は二本松市放射線被ばく測定センターでしたが、ここは主催者である木村真三先生の獨協医科大学国際疫学研究室福島分室の所在地でもあります。

参加者は、福島県内をはじめ周辺の汚染地域から集まっており、それぞれの地域で活動される団体の中心者という方々です。

12日にはそれぞれの団体が抱える問題について報告し、それに対して全員で討議するという形で進められました。被災者としては福島県内に居住しているだけでなく、福島から避難した方や福島県に隣接した地方に居住している方もおられ、それぞれに問題も違い、支援の内容も違ってきます。特に、周辺の地域では福島県のような甲状腺検査は行われておらず、住民

の甲状腺がんへの不安はとて大きいものがあります。放射能雲は県境で消えたわけではなく、セシウムの汚染地図を見ても周辺の汚染は大変大きくなっています。

私たちが97年にベラルーシでの医療支援を始めた時、対象としたブレスト州はゴメリ州やモギリョフ州に比べて汚染が低いと言われていて、支援の対象から外れていました。福島県に隣接する宮城県や栃木県は、一部の市町村で福島県内と変わらないような汚染地域があり、そういった地域に住む住民の間では甲状腺がんに対する不安が広がっています。これは、チェルノブイリにおけるブレスト州のように、注目を集める地域ではありませんが、我々が何らかの関係を持つのにふさわしいと言えます。

宮城県では日本キリスト教団東北教区放射能問題支援対策室いずみが2013年12月から甲状腺検査を実施し

ており、2016年2月までに25回、合計1,237人が検査を受けています。判定基準は福島に準じていますが、2011年3月11日時点で18歳以下だった985人のうち、14人がB判定(5.1ミリ以上の結節、20.1ミリ以上のう胞を認めたもの)となっています。

栃木県では那須塩原市、那須町など県北部を中心とした「3.11つながる、つたえる、そして未来へ」実行委員会が自主的な甲状腺検査を実施しています。エコー検査器は他団体から借用して那須町、那須塩原市で合計150人の検診を実施したということです。

宮城でも栃木でも民間の自主的甲状腺検査ではいろいろ問題を抱えているようです。その一つが専門家の協力が少ないということです。宮城の場合は地元の小児科医や内科医がエコー検査を行っているということですが、甲状腺の専門医ではないため、2

次検査を行うことはできていません。栃木の場合は地元の医師会の協力がなく、北海道がんセンター名誉院長の西尾正道さんが一人に対応しているということです。いずれの地域も甲状腺の専門家の協力を切望してありました。私たちは甲状腺の専門家と長い間良好な関係を保っており、特に清水先生には多くの教え子がおられます。その先生方の中で福島支援に協力的な方があれば、現地の団体との仲介をすることは可能ではないかと思えます。

福島以外の県で甲状腺検査ができないのは政府がそれを望んでいないからで、その中で市民が自主的な検診をしても限界があります。それにもかかわらず甲状腺の心配をしている方は大勢いるわけで、その状況でどうすればいいのか。この会議で私が提案したのは、指先で首のまわりを触って異常を見つける(触診)運動を広めるということです。最初は触診の方法を専門家から教わる必要がありますが、触診のできる人たちがほかの方に教えていけば多くの方ができるようになるはず。この活動を運動として広げていけば、甲状腺の問題を多くの方に知らせていくことができるでしょう。現地の方の話を聞くと、エコー検査にこだわるという面もあって私の提案をすぐに聞けるというわけではありませんでしたが、エコー検査に対する支援と

並行して運動を起こすことはできると思えます。

ネットワーク会議2日目の13日午後よりオプションとして飯舘村を訪問しました。

飯舘村訪問

飯舘村は福島第一原発事故の際、南東の風に乗って放射性物質が多く降りそそいだ村として有名です。事故直後には毎時40マイクロシーベルトの空間線量が検出されましたが、事故から1ヶ月後の4月22日に「計画的避難区域」に指定されました。事故直後に自主避難したのに、避難区域の指定が遅れたために戻ってきた人も多かったようです。その後、村は帰還困難区域・居住制限区域・避難解除準備区域に分断され、国・東電が進める除染＝避難解除＝損害賠償打ち切りという政策に対して、村民の半数以上が原子力損害賠償紛争解決センター(原発ADR)に和解仲介を求め申し立てを行うに至っています。

その飯舘村を案内してくれたのは、

原発事故の前年、飯舘村にある農業研修所の管理人となられた伊藤延由さんです。伊藤さんは新潟県に避難して、新潟と飯舘村を往復する生活をしています。

飯舘村役場の次に案内されたのが、除染廃棄物の焼却施設です。看板には「産業廃棄物の中間処理施設」とは書いてありますが、放射能とか放射性物質という記述は一切ありません。訪問時には煙が上がっており稼働していましたが、5月末の情報では障害のため停止しているようです。

次に、伊藤さんの職場である「いいたてファーム」を訪問しました。ここは周囲の汚染レベルが高く、生活するにはふさわしくありませんが、立入禁止になっているわけではありません。アメリカから導入したエアースンプラー(空気を吸引して空気中に含まれる汚染物質をフィルターにとらえる装置)を見せていただき、放射能測定之苦労話などを聞きました。最後に玄関で記念撮影し、飯舘村を後にしました。



放射線量率マップについて説明する木村真三先生



たくさんのご支援を本当にありがとうございます！
チェルノブイリ被災者支援のために大切にに使わせていただきます。

お名前掲載について

20 16年2月1～4月30日までに募金をして下さった方、ならびに商品購入を通じて活動を支援して下さいました。同封の振込用紙の「氏名掲載」欄で、「可」の部分へ○印をして下さった方々をご紹介します。掲載を許可される方はぜひご記入をお願いします。

なお郵便振替以外からのお振込み等については、許可が確認できなかったものとして、掲載しておりません。募金者名の掲載をご希望の場合は、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

マンスリーサポーター募集中！

月々 300円からの募金で気軽に、コツコツチェルノブイリ支援をはじめませんか？マンスリーサポーターになると毎月26日にご希望の金額がゆうちょ銀行総合口座から自動的にCMNへ寄付されます。「毎回振り込みに行く手間を省きたい」「無理なく継続的に支援を続けたい」という方にピッタリです。お申込、お問合せは事務局までお気軽にどうぞ！

事務局からのお知らせとお願い

振込 用紙は毎号同封しています。これは「思い立った時にいつでも振り込みできるように、毎号同封してほしい」というご要望があったからです。決してお振込を強要するものではありません。恐れ入りますが、ご不要な方は処分をお願いいたします。

住所 を変更された方は、事務局までお知らせください。なお今後の資料送付がご不要の場合は、お手数ですが事務局までその旨ご連絡ください。

(順不同・敬称略)

伊藤金光 井上裕子 榎本みつ枝 川崎幸子
河瀬郁恵 古賀えみ子 財津悠子 佐々木しのぶ 佐藤和子 澤野重男 志村美幸 杉田英雄 高木裕子 高橋武三 高橋美和 田中裕一 田中啓 富田明美 豊坂慎一 野村幸子 東真喜子 深堀ミチ子 福井寿雄 丸山さより 宮田京子 めぐみ保育園職員一同 本岡眞利子 森悠子 森戸春江 和田政子

<2016年2月～4月分の寄付内訳>	
活動支援金	1,312,538 円
のぞみ21カンパ	23,000 円
雪だるま3号カンパ	22,000 円
東日本支援カンパ	73,500 円
合計	1,431,038 円

☆株式会社カタログハウスさまより、100万円の運営支援カンパをいただきました。心よりお礼申し上げます。

<都道府県別 / 計84名 (匿名含む) >

- 【東京都】5名 【埼玉県】2名 【新潟県】1名 【愛知県】1名
- 【三重県】1名 【滋賀県】1名 【大阪府】1名 【兵庫県】2名
- 【島根県】3名 【広島県】6名 【山口県】5名 【愛媛県】1名
- 【福岡県】36名 【佐賀県】3名 【長崎県】3名 【熊本県】2名
- 【大分県】6名 【宮崎県】2名 【鹿児島県】3名

http://www.che-9.to/dekinu2.html#month

●マンスリーサポーターの皆さん / 計120名 (匿名含む)

相羽美香子 磯道綾子 一瀬和美 伊藤利恵 稲田照子 井上礼子 植田清子 内野千鶴子 有働聡美 江原健一 延壽富美 大麻卓子 大久保伸子 大久保弘子 大崎知恵 太田昌子 大場満 小黒慈子 落石久子 片山富美子 金山涼子 紙森優子 亀川早苗 河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻愛子 木村雅子 倉掛太輔 古賀輝洋 古賀尚子 後藤宇企子 財津耐代子 財津悠子 斉藤美代子 阪口香奈子 坂口馨子 佐々野也依 佐竹早苗 佐藤一江 佐藤進一 佐藤照子 白浜千恵子 末永浩子 首藤展子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男・由利子・朱加 網脇牧子 富永隆史 鳥井原桐子 鳥原良子 永尾ゆかり 中島幸代 中島まゆみ 永野沙智子 西首延子 丹羽道代 納富育代 深川哲臣 福井初子 福本勅子 藤田優子 藤本孝子 淵田三輝 古川恵子 松尾智恵子 松木幸美 松永庸子 丸山さより 水本敬子 三野桂子 宮野義治 村西美由紀 村松知子 室屋芳乃 山下澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美抄子 渡邊久美子 渡邊真志子

●皆さまからのメッセージ (一部抜粋)

- 少しでもお役に立てれば嬉しいです。●いつも忘れないように手払いしています。●わずかですがお役にたください。●甲状腺手術をなさった3人の女性。子どものころのチェルノブイリ原発事故の影響が大人になって出てきているのですね。福島の子もたちが20年30年先で同じことが起こるのではないかと心配します。●コーヒーありがとうございました。チェルノブイリ事故から30年、フクシマから5年ですね。日本国の対応は旧ソ連より劣化しています。●年1回の募金ですが、お役にた下さい。●わずかですが、続けようと思っています。●いつも福祉にご貢献頂きましてありがとうございます。わずかでもお役に立ちますように。●マトリョーシカ、ステキです！●おいしいコーヒー、ありがとう。



2016年4月に発生した熊本地震によって被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。約8000キロ離れたベラルーシの人々にも、この地震のニュースが伝わり、現地の方からお見舞いの言葉をいただきました。被災地、被災者の方々に心休まる日々が再訪することを祈っております。(み)

